

―目次―

表紙「希望の丘広場」

「コラム百折不撓」住職

連載「ハヤブサ物語21」

ハザード会・仏教会報告

野呂ファミリー通信②

愛西市の自治を問う②

おてらおやつクラブの交流

藤井裕子の奮闘

ねこつうしん

連載「私の出会った神様たち④」

さとのりの知恵を読む30「四諦八正道」

掲示板・お知らせなど

# 泉 いずみ



(撮影：中野静梨奈さん)

秋出水 避難所はここ 希望の丘 博子

このコロナ禍の中、オリンピックが開催され、ドタバタの中で閉会を迎えました。今までにない形で行われたオリンピックは今後、どのように検証されていくのでしょうか。今は（記事を書いているのが八月二十七日）、パラリンピックが開催されています。基本無観客というところですが、政府は「教育的な効果」という観点で小学生の観戦を薦めているようです。

「教育的な効果」とはどういうことでしょうか。障がい者スポーツは、教育的にとっても良いのか。

オリンピックに出場する選手は、試合の中でベストな結果を残せるよう日々猛烈な練習を行い、真剣勝負の中でドラマが生まれ、私たちはそこに一喜一憂する。特にオリンピックは四年に一度という特別感も相まって、選手一人の背景や想いだけでなく、その選手を支える多くの方々をも感じながら応援することで、感動したり教えられることが多いのではないかと思います。そこには障がいのあるなしは関係あるのでしょうか。障がいの有無に関係なく、オリンピック・パラリンピックに選ばれし選手はみなさん同じだと思います。そのため、障がいのある方々のみを「教材の一つ」として捉えるのではなく、オリンピック選手と同じように、純粋に応援してほしいと感じます。

◆次に「支えの信条」という詩を一部抜粋して紹介いたします。

私の障害を問題としてみないでください。障害は私の一部です。

私を欠陥人間として見ないでください。私を異常で無力な人間として見ているのは、あなたなのです。私の事を直そうとしないで下さい。私は壊れてなんかいません。

(中略)

無理に私の友達になろうとしないで下さい。そんな同情はいりません。私の事をよく知ろうとして下さい。そういったらいつか、友達になれるかも知れないね。

例えそうする事があなたの気分を良くするとしても、勝手に私を助けようとししないで下さい。手助けが必要かどうか聞いてください。私から、あなたが私に手を貸せる方法を教えてあげます。

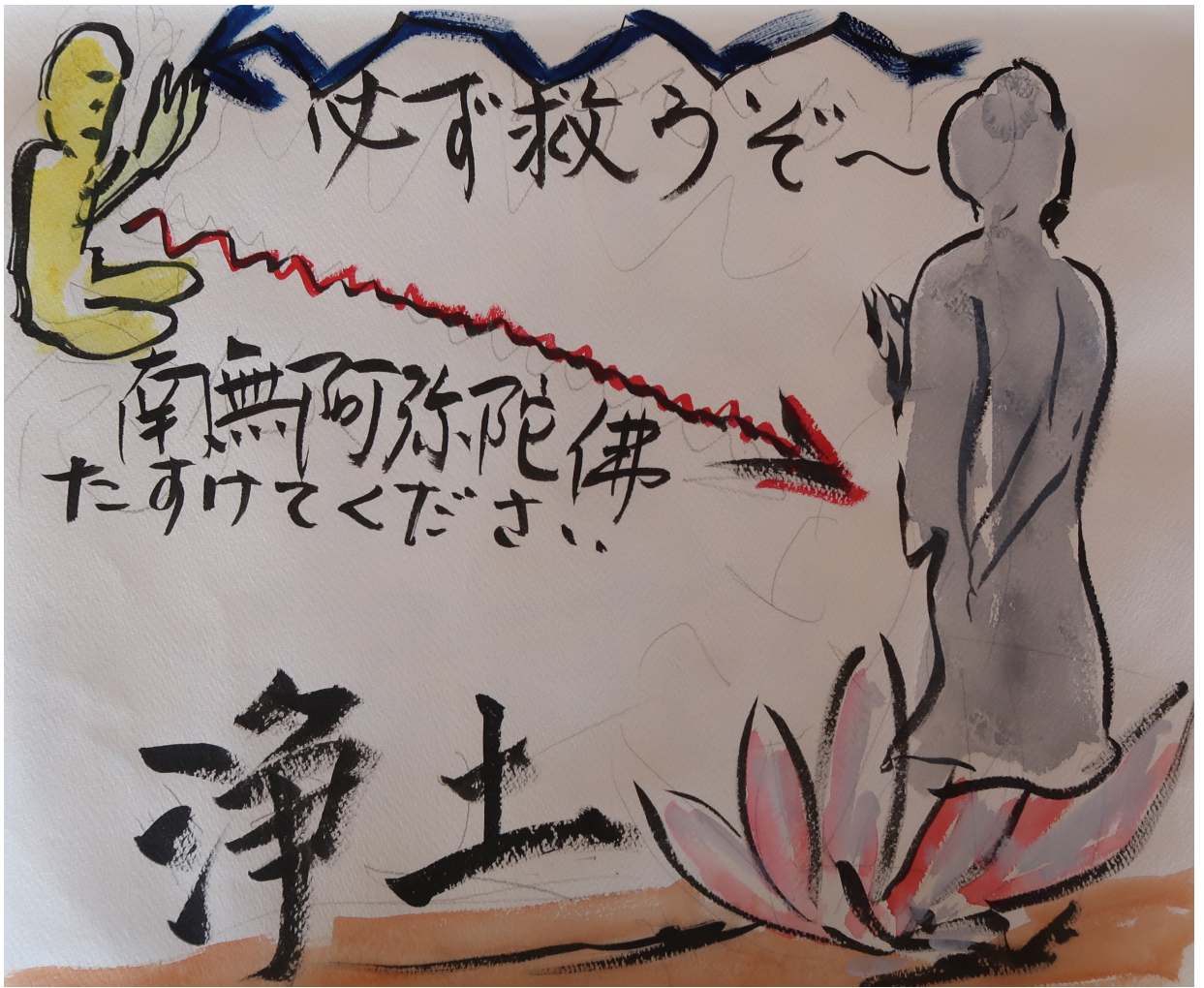
私を称賛しないで下さい。精一杯生きようとする事は、特に崇拝されるようなものではありません。私を尊重してください。尊重の前提には対等があるから。指示したり、矯正したり、指導したりしないで下さい。指示したり、聴いて、支えて、後をついてきて下さい。私は料理されるだけの鯉じゃありません。

あなたと私、同じ水に棲み、共に生きよう。

この詩は、自らが脳性麻痺で障がいのあるノーマン・クンツ作となっています。「障がい」を哀れみの目で見るとは、一人の人間の個性として当たり前に関わりを持つってほしいという強烈な願いが込められています。

賞賛しないでください。精一杯生きようとするのは特に崇拝されるものではない。というフレーズが心に刺さります。そもそも、コロナ禍の中で、しかも子どももの感染率も上がっている中で、観戦すること自体がどうかと思いますが、「教育的な効果」を押し進めていることに対して、「なぜ、パラリンピックだけが？」という疑問が残ります。頑張っている人を応援したり、影響を受けたり、勇気をもらったりする人は誰にでもありますが、そこには障がいの有無は関係ないはずですよ。

同じ水に棲み、共に生きる。それこそが、誰一人取り残さず、持続可能な社会になるのではないのでしょうか。



◆阿弥陀さんは先月号でも言ったように、僕が意識してしようといまいと、ずっと前から僕に電波を出し続けていてくれた。◆たまたま僕は阿弥陀さんの「お前を助けよう！」という信号が聞こえたというより、聞いてしまったんだ。そのときに「たすけてー！」と叫ぶ声なぜか阿弥陀さんを呼ぶ声に変わってしまった。「阿弥陀さんーん！」◆その声にすぐに阿弥陀さんは反応した。「助けに行こうぞう！必ず救うぞう！」◆このやりとりはまさに阿吽の呼吸だった。しかも一瞬だった。でも、阿弥陀さんは僕の「南無阿弥陀仏」の一声を絶対に聞き漏らさなかった。なんてすごいんだ！僕は助かったと確信したんだ！（続く）



緊急避難所（元蟹江高校）

◆表紙に載せたのは元蟹江高校の跡地に造られた「希望の丘広場」と名づけられた、緊急避難場所を兼ね備えた町民憩いの広場だ。県立高校跡地を何かに利用するために、蟹江町が買い上げた。◆そこに東日本大震災が起こった。蟹江町は海拔が低い。そこで広大な土地に盛り土をして緊急避難場所を作るとともに、4階建ての校舎の一部をリフォームして研修会場・多目的ホール・シャワー室・避難物資の倉庫などを設置し、普段は町民に施設として利用してもらい、いざ災害が起きた時には、避難所として機能する施設を造った。

◆十九日、ハザード会員四名と市議員一名、二名の大人と訪れた。大切な事は、多目的に機能しながら、いざという時に防災に役立つ有効な施設を目指していることだ。◆外付けの避難階段を昇り、屋上まで行くと、そこには数百人が緊急避難できる安全な場所があった。10メートルを超す屋上は津波にもびくともしない。◆ハザード会員は是非愛西市にも同様な施設が欲しいときっと思ったに違いない。月末に市へ質問と要望をしに行く予定だ。来月号で詳しく述べよう。

仏教会報告

◆二十日、仏教会長と議員、そして私の3名は、愛西市役所を訪れ、立田地区仏教会として、避難所と遺体安置所について、協力する旨を伝えた。同時に、市の防災計画の中で、仏教会との協定を結ぶことを検討した。◆愛知県や、近隣の市の首長からはずっと以前に、寺院への協力を要請する文書が配布された。しかし、それについての具体的なお願いやら説明は一切なかった。今回、仏教会の方から「どうなってるの？」と行政にお願いに行った感じだ。（変なの？）◆会長の意見は「遺体安置所を寺院に要請する、と計画にあるにも関わらず、市が一切動いていない。」という観点から市に質問した。市としては、計画してあるのだから、何らかの具体案を示さなければ、約束違反になる。◆ただ、私たちは市の怠慢を責めるといった方法ではなく、仏教会も何らかの協力ができるので、具体的な方法を話し合いたいという立ち位置で臨んだ。◆私が一委員として一緒に作り上げた「自治基本条例」にも、「協働」という言葉が良く使われている。どうか、市の仏教会のやる気を削がないように、慎重かつ大胆に（矛盾するか？）行政は応えてほしい。



第2回は信正寺を対えているYさんのお話があります。そして住職を支え続けた坊守のみわさんの奮闘ぶりがかがえます。

## 3、特集

### 信正寺を支えるYさんの紹介

辛苦な生活でありながら...

私の竹馬の友であるYさん夫婦は美深町に住んでいます。中川へ行くときには、必ず、元気な様子を拝見するために寄っていくことにしています。

幼馴染で、生まれた時から小中学、高校まで一緒という親しい関係です。彼は、高校を卒業して数年経過して中川に戻り、親の事業を手伝っていましたが...事業を継承できずに美深に移転しました。

Yさん夫妻は、現在、大病を抱えています。

Yさんは、数年前に高血圧から糖尿病、大腸がんを手術しました。そのため、体調がすぐれず元気がなく、外に散歩にも行けないような生活です。

奥さんは、乳がんになり、更には脳梗塞で回頭手術され、その後遺症からか脳に障害が発生し、障害からか車を運転していると、突然、逆走するそうです。更に味覚が判らなくなり料理はできません。生活苦から食事はスーパーで閉店間際に駆け込み、弁当50%割引を購入して食事をしています。僅かの年金から病院代などの負担が大きく、更に住宅は古くなり雨漏りなど修理費、除雪代...この先、いつまで生活ができるのかと不安な生活をしています。

信正寺の護持会費の名簿を見ると、Yさんの名前があり、毎年、3万円を納付しています。彼の生活の中で3万円は大金です。私は、早速Yさんにお礼を申し上げました。**彼は「先祖から継承の印です。先祖が信仰と共に栄えてきたのですから当然でしょう。」**

信正寺は、Yさんのような種々な年金生活者から護持会費を納付している檀信徒がいることを忘れてはいけません。

今こそ、私たちファミリーは、これから信正寺をどのようにして維持するか...両親が開祖した「信正寺」は開祖した両親の魂であるのです。そのため、我々は傍観者であってははいけません。

住職は、檀家の皆様へ、いかにしてお役に立つかを真摯に考えず行動しなければならぬときです。

## 4、母、「野呂みわ」の遺言

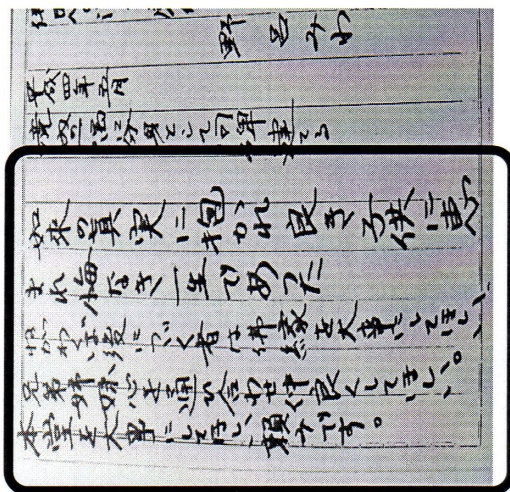
### 我々に何を願っていたか。

母は亡くなって22年にもなります。しかし、思いは消えません。これが母なのです。

信仰心の深い母、遺言にお経唱えていることを思い出します。信城兄も母の信仰心には驚いていました。

その母が、書いた遺言の中身をお読みいただければ、母は信正寺に対する情熱の深さが理解できます。

諸人よ、思い知れかし、我が誕生の日、母菩薩の日(吉田松陰)※自分が生まれた誕生日は、母が最も菩薩をした日である。これを忘れてはいけない。



P2

如来の真実を抱かれ、良き子供に生まれ悔いなき一生であった。

「願わくは後に次ぐ者は仏縁を大事にしてほしい。」  
兄弟姉妹、心を通い合わせ仲良くしてほしい。本堂を大事にしてほしい頼みです。」



「おがくずストロー」の前で暖を取る両親

発端

◆今から十数年前、前市長が「愛西市の自治基本条例を策定したいから、市民委員を募集する」という広報の記事を見つけた。今から思えば、それが私の今を支えていると言ってもいい。◆自分たちのことは自分たちで考え、行政と手をとり合つて、より良い愛西市を目指す、と言ったらいいだろうか、つまり自主的に市民が考え行動する、というアクティブな考え方だった。◆といっても、市が何もしなくなるのではなく、今まで、どぶ掃除は市の仕事、税金を払っているのだから当然市がするべきことと言っているだけでは、行政は破綻する。◆住民自らが主体的に考え行動し、行政と連携すれば、素晴らしいまちづくりにつながる。◆こういった期待を持ちながら20名の市民が集まった。

会議の運営

◆主に二つのグループに分かれて、条例の骨子を練った。詳しくは覚えていない。素人が条例づくりをできるはずもない。そこで熟練のアドバイザーを入れて、ノウハウを教えてもらいながら、我々独自の思いを自由に述べ合った。◆附則にあたる、条例の前文には特に私たちの思いを込めた。

①先祖は苦勞しながら水との闘いを制し、濃尾平野を肥沃な農地に開墾し、子孫に受け継いだ。②市民が豊かに安心して暮らせる町を目指す。③そのため、市民は躍動的にまちづくりに参画し、生き生きとしたこれからも住みやすい愛西市をめざそう。◆こういった文章を起こしながら、条文の内容を検討していった。会議の開催数は数十回に及んだ。細かい文言にも配慮し、時には一字一句を巡って激しいやりとりをしながらもみな情熱を傾けて、良いものを作ろうと議論を続けた。

特筆事項

◆アドバイザーの意見も聞き、特徴的な項目が設けられた。それは、市民の規定である。市民とは住民のみにとどまらず、在勤者も含んだ。また、市民の中でも特に青少年に注目した。彼らは将来の愛西市を担う大切な人材だ。そこで、青少年も積極的にまちづくりに参加できることを強調した。◆愛西市の自治基本条例の目玉は青少年の育成に力を注いだ点にある、と言っても過言ではない。◆しかし、その後、我々市民委員を失望させる事件が勃発した。でも、そこで踏ん張ったから今日がある。(続く)

◆付録にもつけた「てばなす」という冊子。この冊子を定期的に発行している「おてらおやつクラブ」。安泉寺も入会してから随分時が流れた。現在5年目、配布回数76回、段ボール数87箱。◆現在、最も支援している施設は某児童養護施設だ。宅配可能な距離にあるので、檀家さんからいただいた新鮮な野菜も、その日のうちに施設に届けられる。◆この団体は奈良のお寺さんが立ち上げた。餓死した母子家庭の親子の記事が掲載されたことがそのきっかけになった。寺院は檀家さんからの頂き物がある。仏様にお供えした後は、いろいろな人たちにおすそ分けをすればいい。◆みなさんの善意を助け合いのシステムに生かすには、寺院が最適である。大事なことは無理をしない事。無理をすれば続かない。持続可能な開発目標(SDGs)を達成するには、地道に継続する事。安泉寺でも、おすそ分けができる時だけ動く。決して焦らない。あわてない。◆さて、直接手渡しで施設へ持って行くのだが、いつも職員と交わす会話はわずか。また、プライバシー保護から施設の子どもとは一切会話を交わさない。しかし、おやつクラブの事務局は粋なはからいで、寺と支援先を繋いでくれている。それがマイページ。◆私がメッセージを添えて物資を配布すると、数日後メールのマイページに支援先からのお礼の文が届く。事細かに物資をどのように食べたかなど、良く分かり嬉しい限りだ。ささやかな交流があるので次回の励みになり、持続する。以下に紹介しよう

◎ 2021・07・03

大きなスイカを2玉頂きました。立派なスイカでしたので施設の子どもと職員の全員が食べる事が出来そうです。今日は冷蔵庫に入れてすっかり冷え、冷たくて甘いスイカを振舞いたいと思っています。

◎ 2021・07・04

頂いたスイカで幼児さんがスイカ割りをしました。顔よりも大きなスイカを力いっぱい叩いたのですが、幼児さんでは力及ばず、職員が代わりにスイカを割りました。割ったスイカは中身をくり抜き、フルーツポンチを作った。美味しく頂きました。ありがとうございます。



◆NHKの逆転人生にも登場した、教え子の藤井裕子。彼女の活躍が紙面を飾ったので紹介します。

# 集大成 涙の女性監督

## 柔道ブラジル男子の再建に尽力

女性監督の挑戦が集大成を迎えた。愛知県大府市出身の藤井裕子さん(66)は、二〇一八年五月から柔道のブラジル男子代表を指導。かつて自身も選手として闘

ったことのある聖地、日本武道館での大会を終えると「信じてくれた選手たちへ感謝の気持ちでいっぱい」と熱い涙が込み上げた。



①柔道男子66kg級のダニエル・カルグリン選手が2回戦突破を決め、コーチポックスでガッツポーズするブラジル男子監督の藤井裕子さん  
②カルグリン選手(左)が銅メダルを獲得し、感極まる藤井監督(右)も7月25日、日本武道館で

## 66kg級銅の選手「よく俺を見放さなideくれた」

この五輪では66kg級のダニエル・カルグリン選手が銅メダル。豊協のコーチ席から情熱的に叱咤し、三位決定戦後は固く抱き合った。一時は人間不信に陥ったという教え子からは「よく俺を見放さなideくれた」と伝えられた。粘り強く対話を重ねた藤井さんは「巣立ちの時だ」と喜びをかみしめた。

広島大学院修了後、一年ロンドン五輪で留学先の英国代表コーチとして女子選手を二位へ導くと、手腕を評価されてブラジルからオファー。一六年リオデジャネイロ五輪では女子57kg級のラファエラ・シルバ選手の金メダルにコーチとして貢献し、低迷する男子の再建を託された。

女性が男子代表を率いるのはブラジルでは初で、世界的にも極めて珍しい。懐疑的な目を向けられても「性別や国が違っても大切なのは信頼関係を築くこと」と実直に向き合った。「センセイ、ユウコ」は選手全員から慕われていた。

七歳の息子と三歳の娘の母でもあり、一緒にリオに移住した夫の支えを受けた。新型コロナウイルス禍による五輪の一年延期など激動の日々は一区切り。「多くの責任を負うことで、より強くなれたかな」。凜とした表情が輝いた。(共同)

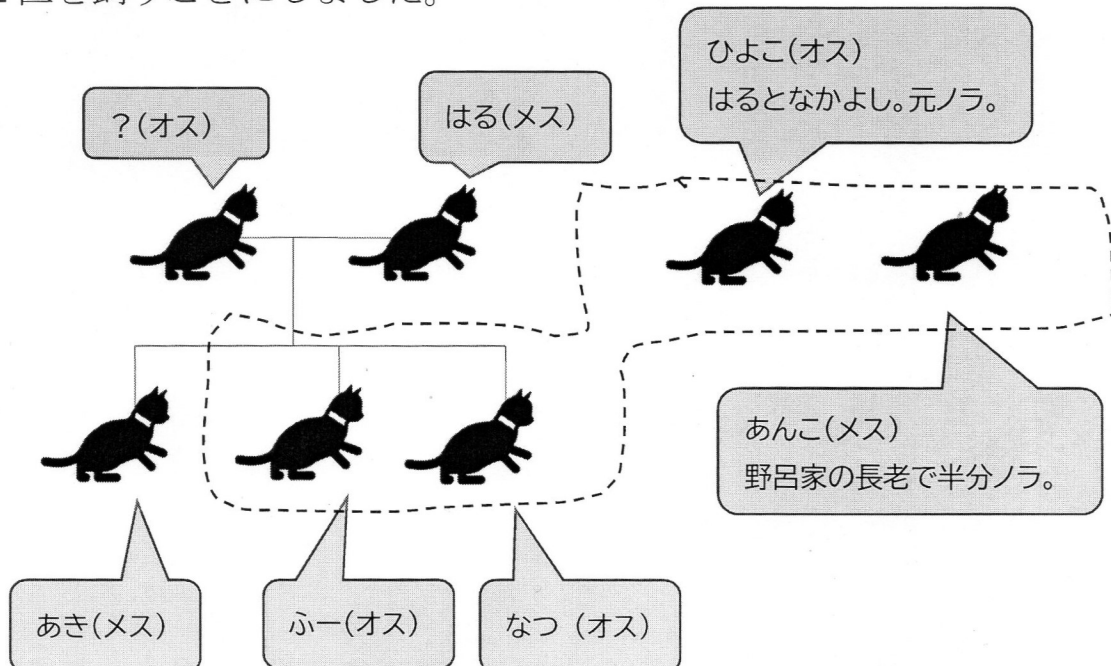


じいじより：まごの小蓮が文章を打ち、絵を父ちゃんと母ちゃんの協力で作り上げ、ねこつうしんができました。毎日の生活のなかでのささやかな出来事をみなさまに紹介します。

## これんに弟ができた!!

ノラ猫の“はる”に子どもができました。7月12日に赤ちゃんを3匹生まれました。はるちゃんは、私たちが赤ちゃんをときどき見るからけいかいして、何度もいばしょをいどうしました。はるちゃんは赤ちゃんを守るためにがんばっていました。

そして、ある日はるちゃんは3匹の子猫を車このすみっこで、育てました。私は、のこぎりの上にいたからどけてあげました。そうしたら、はるちゃんが一番小さい子猫だけをどっかにつれていってしまいました。そして私は残った2匹を飼うことにしました。



◆奥さんが何かうさんくさそうな様子をしました。いまにもご主人に電話をかけそうな様子でした。そのとき僕は、自分の本を一冊持っておりました。木下恵介先生の「人間の歌シリーズ」という企画で、TBSで放映していました。原作の本を私は持っていました。幸い表紙のカバーには私の写真が掲載してあったのです。◆「これが私の本です。この写真を見て下さい。よく似てるでしょ。似てるどころじゃなくて本人です。」と言って、名刺代わりに出しました。◆その作品は「お菓子放浪記」という作品なんです。奥さんはこのテレビドラマの大ファンでいらっしやいまして、毎週木曜日になるとテレビの前にくぎづけになって見てくださったらしいのですね。◆大好きなテレビドラマの原作者がこの人で、この家で生まれたということが分かったとき、急に態度が変わったのです。(笑い)「まあ、上がってちょう。上がってちょう。」と言うわけですね。

## 離れ

◆そんなわけで上がしてもらって、家を見せてもらった訳です。色々懐かしかったのです。僕が九才まで育った家です。一番僕が見たかったのはどこかと申しますと、裏庭にあってははずの離れです。◆裏庭に通して頂きました。離れはありませんでした。形だけは

残っていましたたけれども、物置のようになっていました。とにかく見せてもらいました。◆なぜ、そこを見たかったのかと言いますと、僕が六才の時死んだ母親が、なぜか理由は知らされぬまま、僕が四才の時にその離れに入ってしまったまま、二度と顔を見せなかったことがあったからです。このことはあとまで理由が分からなかったのです。◆離れと言っても、上がれば縁側があり、障子があるのではなくて、箱のような建物で、窓も高いところについているのです。「なぜ、お母さん、あんなところに行ってしまったのだろう。」と子供心にも不思議でしょうがありません。「お母さん、いま頭が痛くてしようがないから、元気になるまで行ってはいけませんよ。」

◆そう言われても、まだ四才です。幼稚園から帰ってまいりますと、絵を描いて沢山マルをもらうとか、年上の子に途中でいじめられたとか、犬に追っかけられたとか、そういうことを帰ってきてまず誰に言いたいかと申しますと、子供ですから母親に言いたいわけです。

(続く)



◆四つの真理は、医者が患者の病気を治すとき  
 の手段とよく似ているともいわれます。◆たとえ  
 ば、最初の「苦諦」がひどい腹痛状態だとすると、  
 次の「集諦」はその腹痛の原因、つまり食べすぎ  
 やストレスということになります。そして、腹痛  
 がおさまった状態が「滅諦」であり、最後の「道  
 諦」とは、腹痛にならないようにする方法、つま  
 り食べすぎをやめたりストレスを軽減したりする  
 という努力のことなのです。◆「諦」はあきらめ  
 るという字なのですが、仏教ではさとり、真理を  
 意味します。

◎苦諦とは◆最初の苦諦とは、生きることは苦  
 しみであるという真理です。◆これは、誰もが経  
 験する現実であり、苦しみにもいろいろあって、  
 「四苦八苦」という言葉で表現されます。四苦と  
 は次の四つです。◆生まれることの苦しみ、老い  
 ることの苦しみ、病むことの苦しみ、死ぬことの  
 苦しみ。◆さらに、次の四つが加わって八苦とな  
 ります。◆嫌な人や状況に出合う苦しみ（怨憎会  
 苦）、愛する人や好きなものから離れる苦しみ  
 （愛別離苦）、求めてもいい結果が得られない苦  
 しみ（求不得苦）、我々の体験を構成する五つの  
 要素からなる苦しみ（五蘊盛苦）。◆まさに人生  
 とは苦の連続であり、一番目の「生まれること」  
 が苦となるのは、人がこのような苦に満ちた人生  
 に生まれてくるからです。

◎集諦とは◆しかし、苦は乗り越えられると  
 ブツダは教えます。あらゆる出来事が苦となるか  
 どうかは、それを受けとるわたしたちのところに  
 よるからです。◆たとえば、老いることは、普通  
 の人間には苦になりませんが、ブツダにとってはた  
 だの自然現象であり、苦と感ぜられませんか。ブツ  
 ダのように苦の原因である煩惱に振り回されなく  
 なる、「四苦八苦」が苦とならなくなるのです。  
 集諦とは、苦には原因があるという真理です。

◎道諦・滅諦とは◆次の滅諦とは、ブツダが三  
 十五才で得たさとりを指すのですが、その後、多  
 くのブツダの弟子たちもこの境地に達したと伝え  
 られています。◆ここで重要なことは、すべての  
 仏教徒もいずれは同じ境地を得ることが可能であ  
 るということなのです。◆そして、この滅諦を実現す  
 るためには、道諦の内容である八つの正しい行い  
 を実践することが求められます。それによって、  
 煩惱がなくなり、執着も減って、苦から解放され  
 ていくのです。つまり、正しい生活を営むことで、  
 食べ過ぎやストレスにならないようにすることと  
 同じです。◆これらの「四つの真理」を認識し、  
 実践することによって、苦は乗り越えられるので  
 す。

九月の行事予定

コロナ感染拡大により、当面の間全ての行事を中止とします。  
八月二十九日の秋季永代経は内勤めに縮小させていただきます。

今月の掲示板

あせるな  
おこるな  
いばるな  
くさるな  
まけるな



◆ 以前紹介した蒲団屋さんの父親の言葉です

お知らせ

- ◆ 付録・認定NPO法人お寺おやつクラブ発行フリーマガジン「てばなす」第五号
- ◆ 愛知県のコロナ感染者が爆発的に増えたため、永代経を中止せざるを得ませんでした。お詫びいたします

訃報

堀田はる子さん 津島市 享年九十八才  
喪主さんの言葉…母は心に波風を立てず穏やかに人生という名の道を一步一步歩んでまいりました。三十年ほど前は伴侶が営む仕立て屋を手伝い夫婦力を合わせて暮らしを支えておりました。(中略) 日常生活の中に多くの幸せを見だし、母は自分らしく生きておりました。今頃、思い出を一つまた一つとたどりながら、母も微笑んでいるのでしょうか。「元気でいてくれてありがとう」感謝の言葉を捧げ、手を合わせて送り出します

編集後記

◆ 永代経御講師の荒山淳師には再度お断りをする事になり、申し訳なく思いました。そこで、来月号に先生の法話を掲載することにいたします。多忙の中、原稿依頼を快諾していただきました。ご期待ください。(住職・老僧)

◆ Kさんからの絵手紙です。

